

長岡市を象徴する「アオーレ長岡」。

そこに込められた願いと長岡の魅力が存分につまった2冊がついに刊行！

aóre

アオーレで、会おうれ。“会えるところ”を建築する。

—シティホールプラザ アオーレ長岡—

隈研吾(建築家)×森本千絵(コミュニケーションディレクター)×藤井保(写真家) 著
A4変・154頁 オールカラー 本体価格2,800円+税 ISBN978-4-621-08704-6 (丸善出版刊)

隈研吾氏による時代の流れを反転させる挑戦。人が集い、つながり、会える建築。森本千絵氏による長岡の人の気持ちをのせ、未来へむかうアオーレバード・サインの世界観。藤井保氏による人と建築の関わりと、長岡の風土と市民の姿をとらえた写真。彼ら3人による、設計図、絵、写真そして言葉を織り交ぜた形で表現される。



目次

■森本千絵(グラフィック) 1. 誇り高い長岡城／2. 市民が愛した公会堂と厚生会館／3. 町民と武士の垣根が低い長岡藩／4. 個性ある11の地域が会って集まって生きている／5. 戦火・地震にも負けなかった不死鳥スピリット／6. 犠牲者の鎮魂と平和への想いを込めた花火／7. 会うこと、それは創造の始まり／8. アオーレで会おうれ

■藤井保(写真) 長岡の風景、人、花火

■隈研吾(テキスト+設計図) 1. アオーレ長岡の設計思想 ハコの反転／なぜ公共建築はハコになってしまうのか／コンパクトシティの具体化／ネットワーク型市庁舎／ナカドマ誕生／市民ワークショップ／スキマの力／素材の力／2. 越後杉間伐材ビヨウブパネルのディテール／ビヨウブ天井のディテール／窓口天井のディテール／議場のディテール／ホールのディテール／アリーナのディテール 3. 小国和紙 和紙の光壁ディテール／4. 栃尾紬 応接室ソファのディテール／窓口パーティションのディテール／窓口カウンターのディテール／長岡市厚生会館の廃材利用／アリーナ断面図／窓口サインのディテール／エンガワのディテール

■特別対談「アオーレ長岡大解剖」(語りおろし) ■あとがき(長岡市長 森民夫)

アオーレで、会おうれ。

—長岡市の挑戦—

長岡市 編

A4変・144頁 本体価格1,000円+税 ISBN978-4-86345-170-4 (丸善プラネット刊)

生活の温もりと人々のにぎわいにあふれた「まちの“中土間(ナカドマ)”」をコンセプトに完成させた「アオーレ長岡」。全国でも珍しい、市役庁舎と市民交流スペースが一体となった公共空間は、かつてこの場所に城を構えていた長岡藩の市民協働の精神を受け継いだもの。伝統を現代に形を変え、完成から現在に至るまでの長岡市の軌跡を辿る。



目次

第一部 ありのままのアオーレ長岡 1章 市民のハレの場としての活用の実態／2章 市役所機能の分散配置への挑戦と総合窓口の設置／3章 市民組織による運営／4章 市民協働センター／5章 福祉のカフェ「りらん」／6章 先進的な環境対策／7章 既存都市機能の活用

第二部 完成までの道のり 8章 決断までの道のり／9章 コンペの実施と隈研吾さんの当選／10章 隈研吾さんの提案／11章 建設工場の現場／12章 運営組織の確立／13章 完成後の実績／資料編 アオーレ長岡の軌跡

アオーレ長岡に協働した3人のクリエイター

隈 研吾 Kengo Kuma (建築家)

“時代の流れを反転させる挑戦。人が集い、つながり、会えるところを生む建築”

1954 年生まれ。東京大学大学院建築学専攻修了。コロンビア大学建築・都市計画学科客員研究員などを経て、1990 年隈研吾建築都市設計事務所設立。現在、東京大学工学部建築学科教授。
著書に『負ける建築』、『自然な建築』、『小さな建築』（共に岩波書店）など。

森本千絵 Chie Morimoto (コミュニケーションディレクター)

“長岡の人の気持ちをのせ、未来へむかうアオーレバード・サインの世界観”

1976 年生まれ。武蔵野美術大学卒業後、1999 年博報堂入社。博報堂クリエイティブ・ヴォックスを経て、2007 年に株式会社 goen° (ゴエン) 設立。N.Y.ADC 賞、ONE SHOW、朝日広告賞、東京 ADC 賞、JAGDA 新人賞など多数受賞。2012 年に第 4 回伊丹十三賞を女性初、最年少で受賞。
著書に『うたう作品集』（誠文堂新光社）。

藤井 保 Tamotsu Fujii (写真家)

“人と建築の関わりや長岡の風土と市民の姿をとらえた写真”

1949 年生まれ。1976 年藤井保写真事務所設立。毎日デザイン賞、朝日広告賞、ADC 賞グランプリ、制作者賞、ADC 賞、ACC 最優秀賞、カンヌ国際広告祭フィルム部門銀賞、N.Y.ADC 賞など多数受賞。
写真集『ESUMI』、『ニライカナイ』、『カムイミンタラ』、『AKARI』（共にリトルモア）、
共著『THE OUTLINE』（アシェット婦人画報社）など。